

3. 活動報告



FEDO 事業報告：ダリット女性に対する暴力削減

2019年4月1日～2020年3月31日

1. 背景

パルサ地区のダリット女性の大半は、地域に依然として残る不可触制、カーストに基づく差別、ジェンダー不平等などの問題により、尊厳を否定された生活を送っている。これら問題に取り組むために、FEDO パルサ支部はこの8年、「ダリット女性に対する暴力削減」のプロジェクトを、日本の浄土宗平和協会の財政支援とIMADRの支援をえながら実施してきた。

FEDO パルサ支部は、ダリット女性のエンパワメントを旨とし、このプロジェクトのもとさまざまな活動を草の根レベルで実施してきた。こうした活動は最終的にはマイノリティコミュニティと地元の地方自治体の間の連携を築き、それぞれの経験と支援を共有することに役立った。

差別と不可触制の問題は、それを受けているダリットやマイノリティの問題だけではなく、社会全体の問題である。私たちは意識高揚と提言活動は社会の一人ひとりの意識変革につながると考える。そのため、今年度は青年のグループをいくつか作り、困難に置かれているダリットコミュニティの青年男女が順調に成人への移行ができるよう、異なる啓発およびトレーニングのプロラムを実施できるようにした。

2. 目的

- * 保健衛生、ジェンダー平等、性教育、ジェンダーに基づく暴力およびその他、コミュニティに存在する問題に関して適切な教育を提供することで、ダリットコミュニティの社会的姿勢に変化をもたらす。
- * 持続可能な方法でのジェンダーおよびカーストに基づく暴力の削減と平等社会の実現のために、男性と女性との間の連合を築く。
- * 地方自治体とダリットコミュニティの間の連携を築く。
- * カースト差別やジェンダー差別および青少年の不利な状況に対して地方自治体政府が責任をもって対応するよう促す。
- * 成長にともなう身体的変化について青少年が認識し、それについてオープンに語れるようにする。
- * 教育の重要性を唱え、ダリットの就学率を高める。

3. 方法

ディスカッション、意見交換、パワーポイントによる説明、講演、グループワーク、ケーススタディなどの方法でプログラムを進める。また、これまで通り、ステークホルダーや自治体政府との調整、ネットワーク構築も行う。

3. 活動報告

4. 活動

	目標回数	実施回数
活動1： 青少年グループの形成	3	3
活動2： 教育の重要性に関する少女・少年の意見交換会	3	3
活動3： 青少年の暴力に対する意識を高めるためのプログラム	3	3
活動4： トレーニングを受けた夫婦の意見交換：義理の母・ 義理の娘、そして夫と妻	2	2
活動5： 暴力に関する地方自治体との意見交換会	1	1
活動6： 議員になったダリット女性へのリーダーシップ養成	2	2
活動7： サービス提供機関による社会政策に関するダリット女性 グループ向けオリエンテーション	3	2
活動8： DV ケースの収集と調査	10	9
活動9： 国際女性デーの集会（女性デーと16日間のキャンペーン）	1	0
活動10： モニタリングと監督	3	3

活動1： 青少年グループの形成

このために、ビルガンジ市の第1区、18区、22区に、それぞれ一つの青少年グループを作った。3つのグループのメンバーは、20歳以下の男女を含め合計60人である。各グループは毎月定例会を開き、トレーニングやプログラムの内容(教育、DV、保健など)や効果などについて話し合った。グループはまた、幼児結婚、虐待、ダウリ制度、アルコール依存症についても話し合った。

グループ名	結成時期	女	男	合計	ビルガンジ市行政区
Janajagaran 青少年グループ	2019年5月3日	11	10	21	第1区
Ujjal 青少年グループ	2019年6月18日	9	11	20	第22区
Pragati 青少年グループ	2019年5月16日	12	8	20	第18区



青少年グループ結成のミーティング

活動2： 教育の重要性に関する少女・少年の意見交換会

教育の重要性の理解と、教育へのモチベーションを青年たちがもつようになることを目指して、意見交換会を開いた。教育の重要性の認識は、ダリットの青年たちのあいだではまだ低いのが現実である。それは多くが貧困とダリ

3. 活動報告

ットに対する差別のまっただなかにあるからだ。それら困難がありつつも、学ぶことを通して世界を知り、自尊感情を高めることにより、その困難に立ち向かう強さを身につけてほしい。

意見交換会 グループ名	開催日	参加人数
Ujjal 青少年グループ	2019年6月25日	20人
Pragati 青少年グループ	2019年6月27日	22人
Janajagaran 青少年グループ	2019年7月24日	20人

成果:

- 1) ダリットコミュニティの青少年の就学率が低い理由がわかった。
- 2) グループメンバーが教育を受けたいとする理由と必要性、それを妨げる要因などが分かった。今後の計画を作るうえで役立つ。
- 3) 青少年に教育の重要性について理解してもらえた。



意見交換会に参加した青少年

活動3：青少年の暴力に対する意識を高めるためのプログラム

DVの問題とそれをなくすための措置について、青少年の理解を促すためにプログラムを3回実施した。一回目は8月3日に行い、少女が10人、少年が13人、講師1人、区役所から1人が参加した。テーマは女性に対するDVの問題であり、カースト差別についてもとりあげた。次いで8月10日そして8月24日に第18区と第1区でそれぞれ開催した。参加者は2回合計で24人であった。

成果:

- 1) 青少年の積極的な関わり。
- 2) DVの理解がえられた。また、そうした暴力をコミュニティからなくすうえで青少年が果たせる役割について理解が広まった。
- 3) 青少年から身近に起きている暴力の事例が共有されたため、今後の暴力削減の取り組みに役立つ。

3. 活動報告

- 4) 暴力をなくすために教育が果たす役割について、青少年の間に気づきがあった。
- 5) 家族のメンバー(被害者)への支援は、差別と暴力に共同で声をあげるうえで重要であると、青少年が気づいた。



暴力に関する青少年啓発プログラム

活動4：トレーニングを受けた夫婦の意見交換：義理の母・義理の娘、そして夫と妻

このプログラムでは、参加した家族が家族内の関係と家庭内や近隣でのジェンダー暴力の原因について話し合った。この背後にあるのは、人びとの間に適切な教育、差別とカースト階層への認識が不足していることである。自由な意見交換を通して、私たちは家庭内のそうした暴力をなくし、平和と協調を作るための解決策を見出すことができた。主な解決策は、教育と、家族の間の尊重、透明性、そして理解である。しかし、ダリットは依然として貧困や差別などさまざまな問題に直面している。それとどう向き合っていくかも課題である。

成果

- 1) コミュニティの問題と解決の措置について明らかにされた。
- 2) 積極的な参加。
- 3) 市の代表も参加をした。ダリットへのスキルトレーニングの提供や衛生設備や道路の改善に努力すると述べた。

活動5：暴力に関する地方自治体との意見交換会

市において暴力が増加しており、自治体はそれをどう削減するかは今後の大きな課題である。自治体関係者を招いて意見交換を行うため、2019年11月11日に第18区で会を開いた。女性12人、男性17人、合計29人が集まった。

成果

- 1) 自治体とダリットコミュニティの間関係作りができ、協力と相互理解を築くことができた。
- 2) コミュニティの問題を自治体政府と共有することができた。
- 3) 自治体政府が今後ダリットに関してどのような取り組みを計画しているのかを知ることができた。
- 4) 地元のステークホルダーに FEDO について知ってもらえた。

3. 活動報告

活動6：議員になったダリット女性へのリーダーシップ養成

2019年12月2日と2020年1月25日の2回、地方議員に選出されたダリット女性のためのリーダーシップ養成トレーニングを行った。ダリット議員23人、ジャーナリスト4人を含む28人が参加をした。議員としての権限があるにもかかわらず、ダリット女性議員の多くは、いかにしてその権限を地域の人びとのために活用できるかについて、十分なアイデアや知識をもっていない。この事実を重視して、トレーニングは、どのような権限を有していて、どのように発揮できるかについて女性たちの意識を高めることを目指した。



ダリット女性地方議員のリーダーシップ養成

活動7：サービス提供機関による社会政策に関するダリット女性・グループ向けオリエンテーション

ダリット女性グループのメンバーに、FEDOの組織について理解を深めるトレーニングを11月9日（第25区で）と1月17日（第8区で）に行った。FEDOの構成、考え方、活動方法、計画などについて説明を行った。また、自分のコミュニティにおけるダリット女性の位置、課題、それにどう取り組むかについても話し合った。同時に、ダリットの子どもたちの教育の現状と教育の重要性についても話し合った。



ダリット女性グループへの啓発プログラム

3. 活動報告

活動8：DV ケースの収集と調査

DV の被害者への支援サービスを政府は提供しているが、ダリット女性は非識字やその他の理由でそのサービスを十分利用できていない。地方自治体の協力をえて、FEDO パルサは独自の方法でダリット女性に対するDV や暴力あるいは嫌がらせの被害者が権利を行使したりサービスを使用できるよう支援した。

成果

- 1) ダリットおよび非ダリットの女性たちは積極的に被害を届け出た。
- 2) 女性たちは正義と権利について主張した。
- 3) 被害者の家族はより被害女性に協力的になった。

活動9：国際女性デーの集会（女性デーと16日間のキャンペーン）

COVID-19 の感染予防のため、今年の国際女性デー（3月8日）の集会は取りやめとなった。その代わりに、青少年グループを中心に小グループで集まり、COVID-19 のパンデミック、感染予防方法、感染したときの症状などについて意識喚起を行った。

活動10：モニタリングと監督

今年度は3回のモニタリングを行い、活動を評価した。9月、11月そして3月に、パルサ支部支部長とコーディネータ、そしてFEDO 中央本部からの担当が各地区を訪問して青少年グループ、女性グループとミーティングをもった。地元のダリット女性議員も傍聴参加した。



FEDO によるダリット女性グループおよび青少年グループの活動モニタリング

3. 活動報告

今後の検討課題

- *リーダーシップ養成とスキル向上のトレーニングがさらに必要である。
- *レイプ事件が急増しているのもっと効果的なプログラムが必要である。
- *中央本部からのロビーイングと提言活動が求められる。
- *ダリット女性議員の能力向上トレーニングがもっと必要である。
- *青少年グループの努力にかかわらず、コミュニティにおける虐待の被害が増えている。
- *人びとは清潔な環境や周囲に対して大きな関心を向けるべきである。

示唆

- *ステークホルダーとの定例会議はダリット女性の現状について知ってもらうために必要である。
- *青少年グループは体育のためにスポーツ用具を得ようと計画している。
- *FEDO 関係者に提案作成のトレーニングを提供すべきである。
- *地区から選出されたダリット女性議員のリーダーシップ養成がさらに求められる。それにより、地区がエンパワーされる。
- *夫婦対象のトレーニングをもっと行うべきである。

来年度への課題

- *住民のダリットに対する固定観念を変えることは難しい。
- *予算が厳しく制限されていることが、究極的な課題である。
- *地方行政における政策の不均衡さ。
- *エンパワーされ、文字の読み書きができる人や強いと言われている。パルサにおいては、大半の人びとがエンパワーされていない非識字の女性たちである。低い自尊心と孤立化を招いている。

まとめ

ダリットはつねに社会の底辺に置かれてきた。カーストやジェンダーに基づく差別、権利意識の欠如、非識字、貧困などにより、ダリットは保健サービスや施設へのアクセスをほとんどもつことができていない。ダリットは多くの健康上の問題を抱えているが、それにお金を使うことはできない。ダリット社会にあるこうした問題をなくすため、ダリット女性がこの活動に関わることは非常に重要であり、同時に、この事業を継続させることは非常に効果的となる。